

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
 (仮称)博多駅南2丁目ホテルプロジェクト新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.4</b>	1.00			<b>2.6</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40	2.5	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	-	2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	2.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.0</b>	0.35	<b>2.0</b>	1.00			<b>2.0</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.0</b>
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.0	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00			<b>3.5</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	全ての内装材(仕上げ・接着剤)はF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	3.3	0.38			
1 換気量	建築基準法を満たす換気量の約2倍である	5.0	0.50	5.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上	3.0	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00			<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	1.0	0.50			
2 高度情報通信設備対応	各客室にGbitクラスのプロードバンドが利用可能	3.0	-	5.0	0.50			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	インテリアベースによる事前検証、照明計画を考慮した内装計画の統一性	5.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な上位3種類の2種以上にB以上を使用、Eの使用無し。	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.8</b>	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	非常時を想定した情報通信設備の確保	5.0	0.20	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.6</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>2.2</b>	0.50	-
1	階高のゆとり		3.0	-	1.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.22	3.0	-	4.0	0.40	-
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	-	<b>3.0</b>	0.50	-
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		視点場からの良好な景観	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	-
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱材で十分な外皮性能を確保	<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			3.0	0.10	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEIm 非住宅 0.71 住宅(専有部) -	<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率設備の導入	4.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制			2.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		全給水器具の過半に節水器具を使用している	<b>4.0</b>	0.40	-	-	-
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	-
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	-
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	-
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.20	-	-	-
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	-
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		GL工法、OAフロアの採用、躯体と仕上げが容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	-
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率80%以下	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	-
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	-
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.3</b>	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストの過半を満足	5.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-